黒埼町の今昔

町史編さん課

木場下組敬神演芸部（四）

昭和二十三年八月、狛犬を奉納、巡業の目的を果たす

狛犬奉納記念写真

昭和23年８月、木場八幡宮に狛犬が据え付けられた。演芸部員たちの２年間の努力のたまものである。

◆狛犬は船に乗って

昭和二十一年以来、二年余にわたる門付け巡業によって、二十三年春には狛犬を奉納できるだけの奉加金を集めることができた。

さっそく、あらかじめ予約してあった新潟市水島町一丁目（丸大デパート駐車場向い信濃川寄り）の石政石材へ、正式に狛犬の製作を発注した。納期は秋の祭りの前の八月中旬ということになった。

演芸部の巡業はその後も続けられ、八月十日ころには奉加金は二十万円くらいに達していた。そのころ、演芸部と石政石材の打ち合せが行われ、狛犬の納入期日を八月二十日と決めた。

八月二十日の早朝、まだ暗いうちに石材店前の堀で狛犬はコウレンボウ（川船）に積まれた。そこから大川（信濃川）に出ると、川を遡って、大野に向かった。当時は、新潟市内の大きな堀はまだ交通機関として利用されているものが多く、同石材店の製品は同店前の堀から信濃川経由で輸送されていた。

◆狛犬、山車に乗って

大野、木場を回る

一方、大野の河口では、朝早くから木場の青年たちをはじめ、婦人会や大字の人たちが集まって、狛犬の到着を待ち構えていた。そのほとんどが山車行列のいでたちで、演芸部員たちはみな踊りの衣装を身につけていた。狛犬が到着したら、山車といっしょに大野の町を門付けして回ることになっていたのである。

狛犬を積んだコウレンボウが河口に到着すると、待ち構えていた一行は狛犬を見ようと船着き場へ殺到した。しかし、狛犬には白い木綿の布が幾重にも巻かれていて、見えないようになっていた。

やがて、狛犬は大勢の屈強な若者たちによって陸に持ち上げられ、用意してあった車に積まれた。車には紅白の幕が張られ、その四隅には笹の葉のついた青竹が立てられ、しめ縄が張られていた。

狛犬の山車を引いた一行は、それから大野の町並みを門付けして回った。そして、夕方遅くに木場の小学校に到着した。

あくる二十一日は木場の各部落を流すことになっていた。

朝早くに青年たちは山車を新田のはずれにあるあらいの地蔵の前に運んだ。山車行列はそこから始まり、新田部落をぬけ、下組、八割を経て上組に入り、八幡宮前には夕方近くに着いた。

八幡宮境内の狛犬を据え付ける位置には、すでにみかげ石のようなもので高く台座が作られていた。

演芸部員たちは昨日から今日と、二日間連続しての踊り通しで疲れ切っていた。しかし、二年半におよぶ門付け巡業を終える安堵感と目的を果たし得た満足の喜びとで疲れを忘れて精一杯に舞い納めた。

その夜は八幡宮の土手に狛犬を積んだまま山車をとめた。そして、狛犬の警護のため、演芸部全員が神社の隣の善兵衛の家を開放してもらって泊まった。暖かい時期だったので、中には神社の拝殿で寝た者もいた。

◆狛犬奉納される

二十二日、朝九時ころから狛犬の据え付け工事が始まった。神社の境内には演芸部員をはじめ、大勢の人たちが狛犬を見ようと集まっていた。間もなく狛犬に巻かれていた白布が取り除かれた。

工事は順調に進み、据え付けの作業は午後に入って終わった。

引き続き神前で狛犬奉納の式典が開かれた。当時、木場小学校の教師で八幡宮の神官の土田与蔵の祝詞奏上に続いて、氏子総代や演芸部員、その他の関係者らの玉ぐし奉奠が行われて、式は終わった。

狛犬の出車（木場）

この狛犬奉納に関する奉加帳やその他の記録資料等の全てが、すでに散逸してしまっているため、演芸部員たちが集めた奉加金の総額は正確にはわからないが、二十数万円にのぼったといわれ、今日の金額に換算してもかなりの大金であったと想像される。

八幡宮社前の、正面道路に一番近いところに安置された二匹の狛犬の台座には、二年余にわたる門付け巡業に耐え抜き、奉納事業を達成した二十六人の名前が刻まれている。

木場下組敬神部

荒木留吉、土田惣二郎、丸山又助、山際山六、外河虎蔵、土田五郎、小林冨司弥、吉井三左ヱ門、村井俊幸、小林林蔵、外河藤英、渡辺武雄、鷲尾正平、富所賢一、佐藤良平、小林平馬、佐藤英夫、鶴巻義雄、吉井平作、鷲尾長一、佐藤義信、桜井正文、豊田昭二、加藤正春、土田二郎、旗本正一

昭和二十三年八月吉日

後援　組内婦人連中

組内女子青年

（執筆：宮田栄門）

町の動き

枝豆生産にいっそうのはずみ

知事が来町、産地激励会を開く

県知事を囲んで右に青木町長、左に本間組合長

八月四日(火)、新潟県知事君健男氏らを迎え、園芸産地現地激励会が行われました。これは、県が園芸生産に対する意欲の高揚を図るため、昨年から始めたもので、昨年、南魚沼郡大和町で開催されたのに続き、本町で二回目です。

当日、まず木場新田野菜生産組合の枝豆ほ場で君知事、県農林水産部長久間健二氏、県経済連会長万歳啓三郎氏など八人の来賓と地元から青木町長、農協組合長本間春市氏の計十人で茶豆の収穫を行いました。

農村環境改善センターで枝豆もぎ取り機の実演、枝豆の試食会が開催されたあと、アトラクションに「木場の棒踊り」が郷土芸能保存会木場支部により演じられました。

式典では、君知事が「県でも園芸生産拡大運動を進めていますが、枝豆の評価は向上しつつあります。市場占有率を高め、さらに新たな躍進を望みます」と激励のあいさつ。

青木町長は「日本一おいしい枝豆に誇りと自負を持ち、今後いっそう精進することを誓います」と歓迎のことば。

来賓を代表し、武田県議会議員から「立派な土づくりで、消費者に好んで食べていただける枝豆を作ることをお願いしたい」と祝辞がありました。

農協組合長が黒埼町における枝豆栽培の概要について説明し、黒埼町野菜部会長戸枝勝蔵氏が「今後ともこの黒埼茶豆の名声をいっそう高めながら、産地の拡大発展に積極的に取り組み、複合営農の確立にさらに努力します」と決意のことばを述べました。

県知事と県経済連会長から木場新田野菜生産組合の五十嵐芳男組合長さん、柏直善副組合長さん、五十嵐五市さん、五十嵐権八さんに記念品が手渡されました。

三世代交流会を開く

六月二十八日(日)、農村環境改善センターで第三回三世代交流会が開催されました。参加者は百二十人。

映画を見たあと、五つのグループに分かれ、「家族とその和合のあり方」というテーマで討議しました。

たとえば――「言葉をかけられることが年寄りには必要」「子供のしつけで）家庭内での仕事の分担を決めて、なるべく手伝わない」

「（姑が嫁に対して）文句を言うのは明日、ほめるのは今日、の心構えが大切」

改善センターでディスカッション

「三食のうち一食だけでも家族がそろって食事すると話合いができ、テレビも一台を家族そろって見るとよい」

明鏡高校教頭の荒木快英先生から「理論はわかっていても実行するには勇気がいる。また、こういう場へ働き盛りの父親をひっぱり出してほしい」と講評がありました。

黒埼荘を増改築工事

九月一日(火)から老人憩いの家・黒埼荘で特殊浴槽の設置と一般浴槽増築の工事が始まります。

在宅の寝たきりの人たちに昼間だけ入浴などのお世話をするために特殊浴槽を新たに作るのにあわせ、老朽化し手狭であった一般の浴槽も現在の一・五倍に広げます。

工事は十月十日に完工の予定ですので、それまで黒埼荘は全面休館しますが、十月十一日(日)から新装なった黒埼荘を利用できます。

短信

7/15～8/15

▶17日経済懇談会　▶20日国道116同盟会総会（新潟市）▶24日町村会（巻町）　▶26日町議会議員補欠選挙　▶28日国保連合会（新潟市）　▶31日郡議会議員研修、農業委員会▶8月3日下水処理場視察（町内）　▶4日園芸産地現地激励会、夜の町長室　▶4、5日初当選議員研修会　▶５日黒埼中が陳情に来庁、農振地域促進協議会　▶６日北陸自動車道対策会議（企画開発課）　▶７日総務文教委員会町内視察、交通安全指導所開設、町協業組協議会　▶８日山田小調査委員会　▶９日木場ゲートボール大会、わんぱく相撲大会▶10日融資委員会（商工振興課）　▶10、11日黒埼茶豆中央陳情　▶12日厚生企業委員会町内視察　▶15日成人式

ＪＣ美術展

美

９月12日(土)～15日(火)

環境改善センター　入場無料